

プーチン「ロシアは超大国になりたいのでない、ただ敬意を払って欲しいだけだ」

【訳者注】個人であろうと国家であろうと、おのれを正当化し、他者の人格を認めない、絶大な力をもつ者をボスとして推戴し、ボスが誰かをいじめると、周囲が一斉にボスの加勢をして身の安泰をはかるということ、これがいかに人間として——囲いの中の熊の群れならいざ知らず——恥ずべきこと、異常なことであるかを、プーチン氏の言葉は思い出させる。イタリアの新聞への彼のインタビュー（6/15）を併せ読めばもっとよくわかるが、彼が特別偉いのではない。周囲がみな狂っているから、彼の常識と理性が際立って見えるのである。彼の物言いの穏やかさにも、彼の冷静な判断力が現れている。これは翻訳（露—英—和）を通じてわかる。特にインタビューの終わりの方で、事情を知り抜いているはずのプーチンが、彼を陥れようとする者たちのために祈るかのように、互いに「パートナー」として世界をよくするために力を合わせよう、と言っているところに注目すべきである。

RT June 19, 2015



ロシアは侵略しようとしているのでもなく、覇権や超大国の地位を狙っているのでもない、とロシア大統領ウラジミール・プーチンは、サンクトペテルブルグでのビジネス・フォーラムの席で述べ、ただ、国際的パートナーから敬意を払って欲しいだけだ、と強調した。

サンクトペテルブルグの国際経済フォーラムの開会基調講演で、プーチンは、元フランス首相フランソワ・フィヨンの、ロシアが「ますます侵略的になっている」という発言には同意できないと述べた。

「我々は侵略的に行動しているのではない。我々は我々の利益を、より強力に、より一貫して防衛し始めただけだ。」

大統領は、ロシアは「覇権とか、はかない (ephemeral) 超大国の地位とかを狙っているでもない」と言った。

「我々は、我々自身の振舞いや発展の標準やモデルを、誰にも押し付けはしない。我々はすべての国際共同体参加者——アメリカ、ヨーロッパ、およびアジアのパートナーたち——と平等の関係をもちたいのである。」

ロシアは屈辱を与えられることを望まない、とこのロシアのリーダーは強調した。

「ロシアは敬意を払われることを望んでいる、と人はよく言っています。そうでない人がどこにいますか？ 屈辱を受けたい人がどこにいますか？ この問題そのものが奇妙ですよ。敬意を払ってくれと言うことによって、ロシアは何か特別の要求をしているわけではありません。」



2015年6月19日、サンクトペテルブルグの第19回経済フォーラムで、外国首脳やビジネス関係者たちとの会食で話すプーチン大統領

関連記事：「プーチンはロシア帝国もクローン軍隊も望んでいない——Q&A 摘要」

<http://rt.com/news/250313-putin-live-conference-highlights>

彼は、ワシントンとその同盟国に対し、ロシアとの関係において最後通牒的な言葉をつかわないように警告した。

「問題は、彼ら（アメリカ）が我々の利害にお構いなく、絶えず自分自身の基準と決定を押

し付けようとする事です」と彼は説明した。「要するに彼らが言っていることは、アメリカの方がロシアのためになることを（ロシアよりも）よく知っている、〈自分たちが上だ〉ということです。まあ、我々の文化や歴史の要請からくる、我々の利益や必要が何であるかは、我々に決めさせてください。」

「ロシアはドンバスに影響を与えている、キエフに影響を与えるのは米と EU であるべきだ」

モスクワはいつも、ドンバス地区の反政府軍を何とかせよ、と言われているが、西側こそ東ウクライナの流血の紛争を解決するために、キエフを何とかすべきである。

「我々は間違いなく（ドンバスの民兵団に）影響を与えています。しかし（ウクライナ）南東部に我々が影響を与えるだけでは、問題は解決しません」とプーチンは言った。

「我々にそれ（キエフを動かすこと）はできないのです。それは我々の西側のパートナーにやってもらわなければならないことです。つまりヨーロッパとアメリカの人々です。これは協力してやろうではないですか」

関連記事：「アメリカとヨーロッパの外交官たちがキエフの急進派と会合し、彼らの“脅威はない”と結論

<http://rt.com/news/ambassadors-us-kyiv-protectors-252>



ロシア人とウクライナ人は、いまだに「一国民、一民族グループであり、…その独自の文化的特異性をもつが、歴史、文化、霊的ルーツを共有している」とプーチンは言い、「何が起

ころうとも、結局は、ロシアとウクライナは、共通の未来をもつように運命づけられている」と付け加えた。

「ロシアは、シリアに、イラクとリビアのシナリオを繰り返してほしくない」

クレムリンは、シリアのバシヤール・アサド大統領の立場を支持しているが、それはシリアが、イラクやリビアのように、社会不安とテロの中に巻き込まれることを望まないからだ、とプーチンは言った。

「イラクの政治機構とサダム・フセイン自身が倒される前には、テロリストというものはいませんでした。これを忘れないようにすべきです。一般的に言って、多くの人がこのことに触れないようにしています。誰がどのように、これらの地域でのテロのエスカレーションの条件を作ったのですか？ これは明らかではないですか？」

プーチンは、西側の連合軍がイラクを侵略した後、「あらゆる人々が追い散らされ、すべてが破壊され、サダムは絞首刑になりました。次に誰がやってきましたか？ ISIS がやってきました」と言った。

「いまリビアで何が起こっていますか？ この国家は実質的に消滅しました。」

「アメリカは、絶対的な悪である ISIS と戦う更なる試みをすべきである」

アメリカはイラク軍を支援し武器を与えているが、“イスラム国”(ISIS/ISIL)は、イラク軍から大量の兵器を奪った、とロシア大統領は強調した。

「いま ISIS は、イラク軍を上回る武装をしています。そしてこれはアメリカのおかげです。何千もの米軍がいまだにイラクにいます。それはどんな結果になりましたか？ 悲しく悲劇的な結果です」とプーチンは言った。

関連記事：「イラク、シリアの ISIS に対するアメリカ主導の連合軍は、〈間違っていた〉——露外相ラヴロフ」 <http://rt.com/news/264193-lavrov-isis-coalition-mistake>

ロシアは、そのアメリカと EU のパートナーに呼びかけて——「特にアメリカには、この原理主義と考えられる絶対的な悪と戦う更なる試みをするを要望します。これはいわゆるイスラム国、あるいは、その種の別のグループですが、これは実は、地球規模のよく知られたテロ組織の一部で、アメリカそのものを繰り返し襲撃しています」と彼は付け加えた。